



九州大学大学院生物資源環境科学府 国際シンポジウム

TPP と日本及び世界のコメ需給変化

- 国際協力と貿易、そして食料安全保障 -

TPP, Rice Trade and Food Security

入場
無料

同時通訳
有り

主催：九州大学大学院農学研究院
平成23年度 JICA 人材育成支援無償(JDS)事業新方式における特別プログラム

日時

2011年12月1日(木) 13:30~17:30

会場

アクロス福岡・国際会議場

福岡市中央区天神1丁目1番1号 TEL 092-725-9111 (代表)

<http://www.acros.or.jp/>



内容

TPP (Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreement 環太平洋戦略的経済連携協定) の交渉参加の賛否について国内の意見が議論百出の状況であります。野田首相は参加の意向を表明し、その一方で農業団体や医療保険の関係者が強い反対姿勢を示しています。こうした中、日本のコメの動向及び世界のコメ需給状況が今後どのように変化するのか、また、どう変化すべきか、その可能性について一緒に考えてみたいと思います。同時に、日本の食料安全保障、さらに、日本の国際協力・国際農業開発支援の観点からも自由貿易のあり方を見つめてみたいと思います。

総合司会：矢部 光保 (九州大学大学院・教授)

スピーカー

伊東 正一 (九州大学大学院・教授)

世界のジャボニカ米の流通、生産、潜在的生産地、について長年に渡る海外調査及び数値データをもとに状況を分析。近年は、コメ、コムギ、コーン、ダイズを含めた世界の食料需給状況とその方向性を解析。世界の食料需給データ、国際価格データ等、多くの情報をウェブ上で公開している：<http://worldfoodapionet.or.jp/>

山下 一仁 (キャノングローバル戦略研究所・主幹研究員)

農林水産省国際部参事官、農村振興局次長等を経て、2009年から現職。農水省勤務時はウルグアイラウンド交渉をはじめ多くの国際交渉に政府代表として出席。近年の研究成果においては、コメの減反廃止、農産物の自由化、輸出拡大、農協改革、さらに TPP の参加を一貫して主張。マスコミからもその意見が多く取り上げられ、世論への影響も絶大なものを持つ。ウェブ上で研究論文の公開をしている：<http://www.canon-igs.org/>

E. J. ウェイルス (アーカンソー大学・教授)

世界のコメ需給シミュレーションを過去20年間にわたり解析しており、世界のコメ需給分析の世界的権威。日本を含む、世界各国のコメ政策及び需給事情に詳しく、その方面に関する論文多数。1992年から現職。米国議会においてもコメに関する貴重な情報源として信頼され、毎年更新される世界のコメ需給シミュレーションは関係者からの期待が大きい。

A. グラティ (インド農業省・生産コスト及び価格管理局長)

国際食料政策研究所 (IFPRI, 在ワシントン) の上級研究員として長年勤務。アジアを中心とする発展途上国のコメ産業発展、貧困撲滅対策などについて深い見識を有する。インドの現首相、M. シン氏より請われ、昨年より現職。インドのコメ需給政策の政府最高責任者として、コメ輸出拡大を積極的に掲げる。同博士の如何によりインドは再び世界有数のコメ輸出国になる可能性もあり、その手腕が注目されている。

ほか

総合討論

申込み・お問い合わせ：2011年11月25日(金)まで (先着100名)

九州大学大学院農業資源経済学講座農政学分野

Tel/Fax: (092) 642-2964、

電子メール: oshi@agr.kyushu-u.ac.jp

